

聖霊降臨節第27週 主日礼拝

2018年11月18日 第一礼拝(午前8:00~) 第二礼拝(午前10:30~) 夕拝(午後7:30~)

前奏	(新聖歌41)		
招きのみことば	『ルカの福音書』15章17-20節	司会者	
※開会の賛美	新聖歌21「輝く日を仰ぐとき」	一同	
※信仰告白	「使徒信条」(新聖歌p.826)	一同	
代表祈祷		司会者	
感謝の賛美	新聖歌182「ただ信ぜよ」	一同	
聖書朗読	『ルツ記』1章1-22節(旧約458頁)	司会者	
黙想		一同	
メッセージ	「故郷へ帰ろう」	近伸之牧師	
※応答の賛美	新聖歌220「恵みの光は」	一同	
感謝の献金	(新聖歌58)	一同	
感謝祈祷		片山初子姉	
諸案内	(来信・集会案内)	司会者	
諸報告	(来会者紹介・報告・暗唱聖句)	近伸之牧師	
※頌栄の賛美	新聖歌63「父御子御霊の」	一同	
※派遣の賛美	新聖歌54「主の祈り」	一同	
※祝福の祈り		近伸之牧師	
※後奏	(新聖歌59-7)		

(※印は、からだの不自由な方以外はご起立お願いします)

第一礼拝	司会：近伸之牧師 説教	音響：片山勝三兄 献金：	
司集	会：片山健司兄 会：小林洋子姉 横堀信子姉	映像・音響：片山浩司兄 説教の録画：近伸之牧師	C S 担当：片山初子姉 ※掃除当番は右表参照

説教メモ

- エリメレクが相続地を離れてモアブへ寄留したことが悲劇の始まりだった。命を救うはずが、わずか十年のあいだにナオミは家族三人を失う。しかしナオミが失意の果てに故郷を目指したとき、回復が始まった。
- 神はナオミの気づかないうちに、ルツを真の神信仰へ導いていた。ナオミの痛みは故郷の人にも理解できなかったが、ルツを通してナオミは慰めを得る。人生の方向づけを変えるとき、私たちにも同じことが起こる。

今週の暗唱聖句

「あなたの民は私の民、あなたの神は私の神です」(『ルツ記』1章16節)

[敬和学園高校の生徒用]牧師のサイン( )

個人、団体からの来信

2018年11月18日

同盟教団の社会厚生部より、謝恩デーのお知らせ[11月18日(日)]

先週の集会出席者数

11/11(日)	教会学校	幼児男子- 小学男子- 中学男子- 高校男子- 男児計- 成人男性- 幼児女子- 小学女子1 中学女子- 高校女子- 女児計1 成人女性1		
	第一礼拝	男2 女4	※月に一回、書道教室を開催	
	第二礼拝(子ども)	男14 女16 男児1 女児2	11/12(月) 月曜家庭集会	男2 女3
	夕拝	男1 女2	11/14(水) 新潟山形僚禱会	男6 女5
			11/16(金) しゃべり場夕ピタ	男- 女5
			11/16(金) 金曜祈禱会	男- 女3

諸集会のご案内

書道教室	11/19(月)午前9:30	『ヨハネの福音書』1章より	書の指導：藤田美保姉
月曜家庭集会	11/19(月)	(休会)	
救禱会	11/21(水)午後7:30	教会堂	司会：山崎敬典兄
しゃべり場夕ピタ	今週は11/22(木)午後1:30より開催します。		問合せ先：渡邊智子姉
金曜祈禱会	11/23(金・祝)夜	教会堂	

11/25(日) 聖霊降臨節第28週

第一礼拝 午前8:00	司会：近伸之牧師 説教	音響：片山勝三兄 献金：沼田佐代子姉	
教会学校 午前9:00	担当：近伸之牧師		
歓迎礼拝 午前10:30	司会：片山浩司兄 集会：小林洋子姉 小山千春姉	賛美リード：賛美チーム他 説教の録音：片山勝三兄 説教の録画：近伸之牧師	感謝祈祷：倉島幹夫兄 ※掃除当番は下表参照
教会学校奉仕	11/4[近伸之牧師] 11/11[佐藤兄] 11/18[片山姉] 11/25[近伸之牧師]		
掃除当番順	11/4[長谷川姉] 11/11[山岸姉] 11/18[横堀姉] 11/25[渡邊姉]		
主日の予定	※宣教区会議	午後4:00~6:00(新潟福音)	出席：片山役員、近伸之牧師
	(夕拝は休会)	礼拝箇所 『ヨハネの手紙 第一』2章1-6節	

報告

- 本日の予定  
礼拝の恵みを感じたいです。自らが戻るべき信仰の原点を思い巡らしながら、今週も一人ひとりが歩んでいきましょう。本日は午後2:00からカナン訪問、その後婦人会ミーティングなどを予定しています。
- 同盟教団の謝恩デーについて  
日本同盟基督教団では、11月の第三日曜日を謝恩デーとしています。謝恩デーに各教会から献げられた献金は、福祉基金、そして退職金制度の原資として用いられます。詳細は、掲示物をご参照ください。
-

主イエスは、大切な真理をししばたとえ話でわかりやすく話されました。次のは「自分を義人だと自任し、他の人々を見下している者たちに対して」語られたたとえですが、それをそっくり引用してみましょう。

「ふたりの人が、祈るために宮に上った。ひとりにはパリサイ人で、もうひとりには取税人であった。パリサイ人は、立って、心の中でこんな祈りをした。『神よ。私はほかの人々のようにゆるする者、不正な者、姦淫する者ではなく、ことにこの取税人のようではないことを、感謝します。私は週に二度断食し、自分の受けるものはみな、その十分の一をささげております。』ところが、取税人は遠く離れて立ち、目を天に向けようとせず、自分の胸をたたいて言った。『神さま。こんな罪人の私をあわれんでください。』あなたがたに言うが、この人が、義と認められて家に帰りました。パリサイ人ではありません。なぜなら、だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるからです。」

(ルカ18:9~14)

主イエスは、自分を義人だと自任する者を「自分を高くする者」、つまり自分を高く評価し買いかぶっている者であり、その人は神に義と認められることがなく、むしろ神に低く評価される者であると言われるとともに、反対に、自分を低くした取税人のほうを義と認められたのでした。

取税人といえば、当時は罪人の代表のように言われていました。それなのに、なんとこの取税人が「義と認められ」て家に帰って行ったと主イエスは語られたのです。なぜなのでしょう。

第一にこの人は自分が神の前に罪人であることを深く認めていたからです。「こんな罪人の私を」と彼は言っていますが、「罪人それは私」、あるいは「私こそが罪人」とでも原文は訳せるほど強烈に、自分の罪を自覚していたことがわかります。ですから彼は、とうてい自分が神に近づけるものではないことを知り、「遠く離れて立ち…胸をたたいて」その悲しみを表現していたのでした。

第二は、「私をあわれんでください」という祈りです。ここで使われている「あわれみ」ということばは、原意において「なだめの供え物」と相通ずるものがあります。当時は、罪のゆるしを得るために「いけにえ」をささげるようになっていました。なぜなら「血を流すことなしには、罪のゆるしはあり得ない」からです(ヘブル9:22)。そのいけにえのゆえに赦してくださいとの思いがこめられていたのでしょう。

結局このたとえは、私たちが罪ゆるされ、義とされる道は、罪の深い自覚とともに、いけにえとなってくださったキリストの十字架を信ずるほかにないことを教えようとするものなのです。



さよ しぐれ うえの きよし きつ たらん  
小夜時雨上野を虚子の来つゝあらん

正岡子規

「虚子」は正岡子規の直弟子、高浜虚子のこと。明治29年、子規は脊椎カリエスを患い、床に伏す日々が続いていた。そんな中での彼の慰めは、同郷であり最も気を許せる弟子でもある、虚子が病床を訪問してくれることだった。その夜も虚子の来訪を待っていた子規は、初冬の時雨の音が耳について離れない。もういつものように虚子が来る時分だ。今頃は上野あたりを歩いているだろうか、と。子規はこの6年後(明治35年)、わずか34歳で永眠する。それから半世紀以上経った昭和29年、虚子はこんな句を起こしている。「すぐ来いといふ子規の夢明易(あけやす)き」

2018年度教会目標 **「弟子の覚悟をもって」**

**「自分の十字架を負ってわたしについて来ない者は、わたしの弟子になることはできません」**

(『ルカの福音書』14章27節)



ライフライン

毎週土曜日 朝5:15~5:45 BSNテレビにて放送中  
☆24時間テレホン『でんわ世の光』025(272)3592

11/24(土)イスラエルシリーズ「キリストの生涯をたどる旅・1」



今月から来年4月まで毎月、「キリストの生涯をたどる旅」と題してシリーズでお送りします。福音歌手の森祐理さんがイエス・キリストが実際に生まれ育ち活動したイスラエルを旅します。第1回は、イエス・キリストが生まれる前、両親であるヨセフとマリアに何が起こったのか、イスラエル北部にあるナザレの町からお届けします。

Broadcast for Expanding Gospel into Niigata  
BEGin。ここから始まるあなたの伝道。

豊栄キリスト教会は、ライフラインを祈りと献金で支援しています。

日本同盟基督教団 新潟山形宣教区  
豊栄キリスト教会 (牧師 近 伸之)

〒950-3322 新潟県新潟市北区嘉山3-11-15

TEL: 025-387-4934 FAX: 025-250-0155

ホームページ: <http://www.toyosakakyokai.net>

電子メール: [info@toyosakakyokai.net](mailto:info@toyosakakyokai.net)

ブログ: <http://www.toyosakakyokai.sblo.jp>

